

## 令和元年度 中間決算概要

## 1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	H30年度 上期実績 A	R1年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H30年度 通期実績	R1年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
<b>営業収益</b>	12,071	6,578	△ 5,492	△45.5%	19,431	13,190
<b>高速道路事業</b>	11,711	6,102	△ 5,609	△47.8%	18,659	12,289
(料金収入)	4,432	4,505	72	1.6%	8,599	8,633
(道路資産完成高)	7,246	1,563	△ 5,682	△78.4%	9,985	3,566
(その他の営業収益)	32	33	1	3.0%	74	90
<b>関連事業</b>	389	503	113	29.0%	838	974
(SA・PA事業)	223	226	2	1.0%	416	419
(受託・その他の事業)	166	277	111	66.8%	422	554
セグメント間取引の消去	△ 30	△ 27	3	△10.7%	△ 66	△ 74
<b>営業費用</b>	11,778	6,290	△ 5,488	△46.5%	19,386	13,139
<b>高速道路事業</b>	11,444	5,837	△ 5,606	△48.9%	18,649	12,265
(道路資産賃借料)	3,097	3,136	38	1.2%	6,211	6,172
(道路資産完成原価)	7,246	1,563	△ 5,682	△78.4%	9,985	3,566
(管理費用等)	1,100	1,137	37	3.4%	2,451	2,526
<b>関連事業</b>	365	479	114	31.4%	805	948
(SA・PA事業)	201	201	0	0.1%	385	391
(受託・その他の事業)	163	278	114	69.9%	419	557
セグメント間取引の消去	△ 30	△ 27	3	△10.6%	△ 67	△ 74
<b>営業利益</b>	293	288	△ 4	△1.4%	44	50
<b>高速道路事業</b>	267	264	△ 2	△1.0%	10	23
<b>関連事業</b>	24	23	△ 1	△5.4%	32	26
<b>経常利益</b>	309	302	△ 7	△2.2%	75	77
<b>親会社株主に帰属する中間（当期）純利益</b>	225	222	△ 2	△1.2%	41	54

※) R1年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績はさまざまな要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おきください。

(注)当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

## 2. 連結営業概況

### (1) 高速道路事業の営業状況

- ▶ 高速道路事業の営業収益は、前期比5,609億円減の6,102億円となりました。  
このうち、料金収入については、前年の東京外環自動車道の新規開通効果など<sup>※1</sup>により、交通量が引き続き増加したこと<sup>※2</sup>により、前期比72億円増の4,505億円となりました。  
また、道路資産完成高については、東北中央自動車道(南陽高島インターチェンジ(IC)～山形上山IC)の新規開通などがありました。前期に比べて道路資産の引き渡しの規模が小さかったため、前期比5,682億円減の1,563億円となりました。

※1 平成30年度開通区間 東京外環自動車道 三郷南IC～高谷JCT (15.5km)  
後志自動車道 余市IC～小樽JCT (23.3km)  
令和元年度開通区間 東北中央自動車道 南陽高島IC～山形上山IC (24.4km)  
※2 通行台数 304万台/日(前期比2.2%増)

- ▶ 高速道路事業の営業費用は、前期比5,606億円減の5,837億円となりました。  
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、前期比38億円増の3,136億円となりました。  
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。  
管理費用等については、新規開通路線の管理費用の増加などにより、前期比37億円増の1,137億円となりました。
- ▶ この結果、高速道路事業営業利益は、前期比2億円減の264億円となりました。
- ▶ 当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて下期のほうが多くなる傾向があります。このため、上期の営業利益は264億円ですが、通期では23億円の営業利益を見込んでいます。

#### ■ 令和元年度高速道路事業 営業損益 (連結)

単位:億円(単位未満切捨て)

区 分	上期実績 ①	下期見込 ②	通期見込 ①+②	
営業収益	6,102	6,187	12,289	
(うち料金収入)	4,505	4,128	8,633	上期>下期
営業費用	5,837	6,428	12,265	
(うち管理費用等)	1,137	1,389	2,526	上期<下期
営業利益	264	-241	23	

## (2) 関連事業の営業状況

- サービスエリア・パーキングエリア(SA・PA)の飲食・物販店舗売上高は、ゴールデンウィークが10連休だったことに加え、前期に北関東自動車道 太田強戸PAがオープンしたこと及び7月にオープンした東北自動車道 蓮田SA(上り線)の売り上げが好調だったことから、前期比10億円増の565億円となりました。
- これにより、SA・PA事業における営業収益も前期比2億円増の226億円となりました。また、営業費用は前期並みの201億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前期比2億円増の24億円となりました。
- 受託事業・その他の事業を加えた関連事業全体の営業利益は、前期比1億円減の23億円となりました。

### 【参考】個別決算概要（経営成績）

(単位:億円[単位未満切捨て])

区 分	H30年度 上期実績 A	R1年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H30年度 通期実績	R1年度 通期見込 ※1
			B-A	(%)		
<b>営業収益</b>	11,872	6,398	△ 5,473	△46.1%	19,085	12,847
<b>高速道路事業</b>	11,681	6,071	△ 5,610	△48.0%	18,594	12,214
(料金収入)	4,433	4,505	72	1.6%	8,599	8,633
(道路資産完成高)	7,246	1,563	△ 5,682	△78.4%	9,985	3,566
(その他の売上高)	2	2	0	1.9%	8	14
<b>関連事業</b>	191	327	136	71.3%	491	632
(SA・PA事業)	57	58	0	1.1%	107	109
(受託・その他の事業)	133	269	135	101.7%	383	523
<b>営業費用</b>	11,592	6,119	△ 5,472	△47.2%	19,105	12,846
<b>高速道路事業</b>	11,412	5,802	△ 5,609	△49.1%	18,627	12,222
(道路資産賃借料)	3,097	3,136	38	1.2%	6,211	6,172
(道路資産完成原価)	7,246	1,563	△ 5,682	△78.4%	9,985	3,566
(管理費用等)	1,068	1,102	34	3.2%	2,430	2,483
<b>関連事業</b>	180	316	136	76.0%	477	623
(SA・PA事業)	44	45	1	2.4%	92	95
(受託・その他の事業)	135	271	135	100.1%	385	528
<b>営業利益(△損失)</b>	280	279	△0	△0.3%	△ 20	0
<b>高速道路事業</b>	269	269	△0	△0.1%	△ 33	△ 8
<b>関連事業</b>	10	10	△0	△4.6%	13	8
<b>経常利益</b>	314	301	△ 13	△4.2%	19	25
<b>中間(当期)純利益</b>	236	225	△ 11	△4.7%	12	21

※ R1年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績はさまざまな要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おきください。

## ■トピックス(令和元年度上半期の主な取り組み)

### 【高速道路事業】

#### ■新規開通(ネットワークの整備)

東北中央自動車道 南陽高畠IC～山形上山IC間(24.4km)が、平成31年4月13日に、地元の皆さまのご協力のもと無事開通することができました。この開通により、東北中央自動車道と並行する国道13号線の渋滞緩和、東北自動車道・山形自動車道・東北中央自動車道間でのダブルネットワークの構築による災害時における代替路の機能確保に加えて、関東圏へのアクセスが向上しました。



開 通 式



南陽高畠IC

#### ■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。令和元年度においては、関越自動車道水上IC～湯沢IC間の松川橋など5橋の床版取替工事などが完了しました。



関越道 松川橋床版取替工事



道央道 千歳川大橋床版取替工事

### 【関連事業】

#### ■SA・PA商業施設のオープン

令和元年7月29日に東北自動車道 蓮田SA(上り線)をオープンしました。新たな蓮田SA(上り線)は、東京方面に約2.5km移転し、旧SAと比べて駐車マスを約3倍、商業施設の規模を約2倍と大きく拡張し、商業施設は「Pasar(パサール)蓮田」(上り線)として開業しました。



東北道 Pasar 蓮田(上り線)